

第14回市長とジェンダー ミーティング

2026

8

🚩 産後は全治2か月の大仕事！ "当たり前"を問い直す子育てとジェンダー
残暑がやわらぎ、すがすがしい天気恵まれた8月27日、職員会館を会場に第14回市長とジェンダーミーティングを開催しました。今回は、本ミーティングメンバーであり、市内柏木町で助産院なりママを営む中田知穂さんに、「子育てとジェンダー」をテーマにお話いただき、皆さんで子育ての現場に潜む"モヤモヤ"を語り合いました。

🚩 知ってほしい 産後のからだと子育てのリアル

- ・妊娠・出産は命がけ 病気ではないが、新しい命を産み出す行為。元気に生まれてくることは当たり前ではない。
- ・産後は"全治2か月の内臓損傷" 胎盤が排出された後の大きな傷、約1か月の出血、寝不足の中で始まる子育て。外見では分からない大変さがある。
- ・"手伝う"より"一緒にやる" 「手伝うよ」は指示待ちのサポートに聞こえがち。お互いに「ありがとう」と言い合える関係が大切。
- ・モヤモヤの正体はコミュニケーション不足 「言わなくてもわかるだろう」が「わからない」に。価値観のずれを言葉ですり合わせるのがカギ。
- ・無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に気づく 「女性は家事、男性は稼ぐ」という思い込み。収入差にかかわらず役割は話し合いて。
- ・たくさんのロールモデルに出会う 子育てを親世代だけに閉じ込めず、地域全体で関わる環境づくりを。



専業主婦の家事・育児を外部委託した場合、年間1,000万円以上かかるとも言われています。多くの女性がこれを家庭内で無償で担っているのが現状！



グループディスカッション発表内容

今回は、週末にステキな予定のある方に発表してもらいました。皆さんどんな予定だったのかな？

班	心に残った意見
A班	子どもの有無にかかわらず「お互いに理解し、わかり合う」ことが基本。「お互い様・相互理解・思いやり」を次世代へ。
B班	まずは家庭や職場の小さな輪でコミュニケーションを始め、ステレオタイプをすり合わせる。輪が広がれば苫小牧全体が変わる。
C班	子どもの病気時に預かってくれる存在（祖父母・保育所）や、役割分担してくれる配偶者が助かった。100点を狙わず気持ちを楽に。
D班	育休取得者の業務を代替した人に手当をつける制度が印象的。休む人も心置きなく休める仕組みがミソ。

市長総評

四つの班に共通していたのは、「相手を思いやる」「コミュニケーションをしっかりと取る」という根本の姿勢でした。中田さんのお話にあった「産後の大変さ」も、まさに知らなければ想像できないこと。だからこそ、言葉にして伝え合うことが第一歩になります。個別の課題はさまざまですが、「相手を思いやる」「コミュニケーションをしっかりと取る」ことがジェンダーギャップの解消にもつながっていくと、皆さんの発表を聞いて改めて感じました。

わたしの宣言（一部抜粋）

- ・わたしは育休が取りやすくなるよう、職員に積極的に働きかけます
- ・男性の家庭参画・夫婦のパートナーシップの重要性を家庭・企業へ広げます
- ・性別に関わらず、仕事と育児を両立できる風土・仕組みづくりに取り組みます
- ・コミュニケーションを強化し、相互の価値観を理解する取り組みを実施します
- ・職場メンバーそれぞれの性差に対する価値観のすり合わせを実施します



市では男女平等参画について
Instagramで配信しています

